

県立病院ではたらく仲間をつなぐ

2024. 8. 1

No.175

病院組合ニュース

愛知県病院事業庁職員組合
〒453-0016 名古屋市中村区竹橋町36番31号
電話(052)212-8031 FAX(フアックス)0120-930-340
メールアドレス byoin@aichikenshoku.gr.jp
発行責任者 亀井祐介

第51回医療研究全国集会 in 和歌山



病院組合では、毎年多数の組合員の方へ各種集会等へ参加していただき、その参加レポートを組合員の皆様に報告しています。今回「第51回医療研究全国集会 in 和歌山」が開催され（6月29・30日）、病院組合から2名の組合員が参加しました。

交渉の大切さ

た。

第51回医療研究全国集会全二日間に参加させていただきました。

1日目の全体会では、研究集会の開催された和歌山県でのコロナ対応について、福祉保健行政でトップを担った野尻孝子氏の報告でした。氏がどのように国とは異なり県独自で情報収集を行い、意思決定を行い、知事を含む各機関と懸命な調整と連携を行ったかについて報告されていました。基調報告は社会保障の削減について問題提起がされているものでし

2日目は各分科会にテーマが分かれていました。私は「切れ目のない当事者主体の精神保健医療福祉の改善を目指して」に参加しました。診療報酬の改定についての説明と改定に伴う各病院の賃上げ交渉の結果や、精神科病院における長期入院患者の退院促進のために精神保健福祉士の奮闘の報告、日本とヨーロッパの精神科病院の比較し、現在の日本の精神科医療の問題点と展望についての発表などがありました。

全二日間の概要を見ても、この研究発表会は日本医療労働組合連合会が携わっているため、各医療現場で展開されている医療についてだけにおさまる報告ではありませんでした。より広い今後の国の社会保障政策や動向、診療報酬の改定についての実際、また労働条件の交渉に関しての報告もあり、労働条件の改善を行う組合活動に還元出来る内容も多くありました。全二日間の中で通底した自分が感じとった重要なテーマは「交渉の大切さ」でした。

発表の内容に即して書くなら、コロナ対応について入院受け入れは出来ないかと病院から言われる。所属からの医療関係者の処遇改善のために診療報酬の改定が行われても、賃上げをしようとする。精神科病院でも色々な制度があるが、その制度のフオーの網の目から落ちた患者さんについて、また自分の障害年金も家族に使われ、家族の反対で長期入院を余儀なくされている。このような一見静かな変わらないように見える事柄に関して、報告者がなんらかの調整と交渉を行い改善や解決に導いていました。一見静的にみえる事柄も綱引きのように動的な側面はあると感じました。ただ動かすには今までの過程や流れ、あるいはその制度の立てつけを知る必要はあります。そしてそれは個人だけだとなかなか難しいと思いました。個人ではなく団結して諦めずに声を上げ続け交渉する重要性和必要性を再認識した研究集会となりました。貴重な学習の場を頂き、感謝申し上げます。

(精神医療センター
参加者Aさん)

精神科患者の人権を 守るために

精神保健福祉法における本人非同意の入院には、医療保護入院がある。この医療保護入院は座敷牢から患者を救う役割があり、多くの虐待から患者を守つたと言われている。

今回の医療研究全国集会では、この医療保護入院に関連した私たち公営病院の抱えている問題を考える機会を得た。以下にそれを記す。

当時、パラダイス論が展開され、日本には多くの精神科病院ができた。患者らは、受け入れの無い社会から守られるため、そこで一生を終えることが望ましいと考えられていた。しかし、時代とともに人権に対する意識は変わり、「精神疾患があつても、地域社会で暮らすその人らしい生活」が世界中で叫ばれた。そこから、あらゆる国で非同意入院、精神科病院の排除活動が始まった。精神科病院が淘汰された国がある一方で、日本にはいまだ多数存在する。その理由として「民間の精神科病院が多いこと」「長期入院でも利益が生じること」が挙げられる。

公営が多かった他国では、国の方針で病院数を減らすことができず。しかし、民間病院が多数ある日本では容易ではない。民間病院は多くの患者を非同意で長期間抱えて経営することも可能である。

一方で、利益にならない患者は民間病院で受け入れに難色を示される。しかし、私たち公営病院は、どのような患者でも等しく受け入れ、地域の精神衛生

を支える役割がある。ところが、現在の地域移行を進める国の方針に従うと、患者の退院促進によって病床稼働率が低下しやすく、同時に収益が低下する。収益低下によって、人員配置や職場環境改善など労働条件・環境に不利益を与えている。私たち公営病院は、国の方針に従って苦しい状況に陥つていると言つても過言ではない。これらに疑問を持ちながら働き続けるのもまた、労働意欲を減退させる一因となる。

このような複雑な問題を抱えている日本の精神科病院の状況ではあるが、単に医療保護入院を撤廃すればよいものではない。現在の日本では、退院後の支援は患者の家族に多くの責任があり、そのサポートが不十分である。国、自治体が家族と地

域に対してサポートをし、十分な地域での受け入れ態勢を整えることで、この社会問題を解決することができる。と考える。

(精神医療センター 参加者Bさん)

なんと!! 2週連続!! 病院組合レクのお知らせ

その① 2024年9月1日(日) 特別ユニフォーム配布日!!

地元ゆかりある **OB選手座談会** と

プロ野球観戦ツアー

応援グッズ&お弁当付き!! in バンテリンドームナゴヤ

締切り 8月15日(木)

その② 2024年9月8日(日) 今話題のテーマパーク!!

近鉄電車に乗って **志摩スペイン村**

パルケエスパーニャ への旅!!

締切り 8月22日(木)

★詳細は職場に配布のチラシをご覧ください★



(精神医療センター 参加者Bさん)

青年部交流会のお知らせ

予告 **劇団四季 ミュージカル**

バケモノの子

&

ランチコース

日時 10月10日(木) 11時30分~

会場 名古屋四季劇場 LAZOR GARDEN DINING

毎回、交流会で大好評のミュージカル鑑賞会&ランチコース今回は青年部交流会として開催します!

※今回は青年部1人につき、青年部でなくても病院組合員・賛助会員であれば1人の同伴可能です!

★詳しくは8月下旬に職場に配布のチラシをご覧ください★